



写真3 よく整備された農道



写真4 よく整備された農道

三原村は、写真の撮影スポットとしても素晴らしい。実は、三原村は写真家、野町和嘉氏の出身地でもある。野町和嘉氏の写真は三原村役場の村長室や、三原村農業構造改善センターなどに、たくさん展示されている。素晴らしい作品の数々である。まさか、このような「田舎」で、野町和嘉氏の写真と出会えるとは夢にも思わなかった。確かに、この村の風景は、写真の被写体としても素晴らしい村である。三原村に写真ミュージアム（ギャラリー）を造り、そこで写真家などを育成する仕組みができればと、ふと考える。

村内を縦横無尽に走る小川は、水量は多いが、水はけがよく、昔はたくさんの川魚やエビがいたようである。今でも、少しだけではあるが川エビを捕ることができる。これを河原で焼いて食べると、まさに珍味である。

(6) 濁酒特区で「村」おこし

農林業が主産業である三原村は、美味しいお米「みはら米」でも有名である。現在では、県内でも有数の米産地として「みはら米」が好評を得るまでになった。しかし、単なる米だけでは付加価値をつけることは難しいのが現状である。そこで三原村では、この「みはら米」を活用した濁酒づくりを計画し、2004年12月、「三原村濁酒特区」の認定をうけた。適用される規制の特例措置は、農家民宿等における濁酒の製造許可の要件緩和である。

要は、農家レストラン等（農家食堂方式）での濁酒の製造・販売である。三原米で作った濁酒をセールスポイント（トリガー）にして、三原米の消費拡大に繋げていくとともに、県外や都市部の消費者が、三原村の直販所「夢市場」や農家食堂などを訪れて農産物や硯などの特産品を購入していくことは、生産物の販路拡大や地産地消を促進することにも繋がる。そして、農業を含めた地域産業と「食」を繋げていくことは、「村」のブランド化にとって非常に有効な手段である。しかし課題は、これから如何にして夢を膨らませ、実現していくかである。その「仕組みづくり」である。

2007年4月中旬に三原村を訪問したとき、まず目に飛び込んできたのが、村のど真ん中の四つ辻に立っている「土佐三原どぶろく案内板」であった。



写真5 土佐三原どぶろく案内板